

令和6年度 第1回新潟広域都市圏ビジョン懇談会 議事録

- 日 時：令和6年8月5日（月）午後2時から午後2時50分まで
- 会 場：NEXT21 12階 IPCビジネススクエア
- 出席委員：上村委員、小見委員、金子委員、佐野委員、関原委員、
高井委員、中山委員、三原委員、山賀委員、渡辺委員
- 事務局：本間統括政策監、山本政策監、佐久間課長補佐、藤下係長、
荒川副主査、本田副主査
- 報 道：1社
- 傍 聴 者：0名

○ 議題（1）

2023年度連携事業の実績報告について

山本政策監 【資料1】説明

（意見・質問）

高井委員

新潟空港利用活性化に関して、トキエアが就航したことは非常に大きな新潟空港の活性化の起点になるのではないかと思います。

新潟空港整備推進協議会という記載があるが、どのような主体、会議体なのか。（新潟広域都市圏ビジョンは）新潟市を中心とする広域の政策であり、新潟県全体に及ぶものではないため、佐渡のユネスコ世界文化遺産登録と直接関連付ける訳にはいかないのかもしれないが、こういったことを利用して、新潟空港の利用活性化を新潟市を起点とする観光業の活性化に結び付けてもいいと思う。どういう形でこういった協議会と連携していくのか、お聞かせいただきたい。

山本政策監

ご指摘いただいたとおり、空港の利活用を通じた観光業の活性化に新潟市も取り組んでいるところ。事業主体は県がある程度中心になっているが、新潟市も非常に関わりがあり、佐渡の世界遺産登録に向けても、新潟市を經由して佐渡へという部分もあるため、新潟市も積極的に空港利用に関わっていきたい。

具体的な関わり方については、新潟市の観光部門として関わりを持ちながら、いろいろな事業についても一緒に取り組みをしており、こういった取り組みを通じて、新潟地域の活性化、圏域の活性化にも引き続き取り組んでいきたい。

○ 議題（２）

第３期新潟広域都市圏ビジョンについて（案）

山本政策監 【資料２－１、２－２】説明

（意見・質問）

三原委員

新潟市は、いわゆるものづくりのまちというよりはサービス産業が中心のイメージが内外、自他共にあると思うが、次期ビジョンの中で、製造品出荷額を大きな指標としたことについて、事務局内での議論の経緯などを紹介してほしい。

山本政策監

製造品出荷額の提案の背景については、先ほど資料２－２で説明した、選定にあたり考慮すべき事項①から④を考慮するとともに、前回２月の会議でのご意見も踏まえたもの。

三原委員からのご指摘のように、新潟市は第一次産業、第二次産業よりは第三次産業の方が割合として高い一方で、この指標については、圏域全体の経済成長のけん引という成果を測るものとして、一つは指標として観光入込客数を設けており、もう一つの指標として何を取り扱うかということで、これまでは市町村総生産額としていたものの、数値がすぐに反映されるものではないことから、従業者数に変わった経緯もあったが、それ以外の指標も含めて検討した結果として、観光入込客数と製造品出荷額を合わせて、圏域全体の経済成長のけん引の指標とすることもできるのではないかとということで提案させていただくもの。

こちらの提案については、必ずしも今回承認をいただくものではなく、来年の第３期ビジョンの策定に向けて、方向性としてご提案をさせていただくものであり、皆様からご意見をいただきたい。

小見委員

どれを KPI に設定しようが、結局その実現のために様々な施策があると理解している。現在様々な連携事業があり、それぞれについて目標なり実績なりが資料として出されているときに、製造品出荷額を KPI にして、その数字を当然アップするような水準にしようと思うが、具体的にその連携事業としてどのようなものが想定されるのか。（製造品出荷額は）非常に広い概念であり、幅広すぎるという気もしない訳ではないが、イメージで結構なのでお聞かせいただきたい。

山本政策監

製造品出荷額を成果指標として捉えた場合に、どのような事業を行っていくかということについては、具体的には、例えば、資料1の6ページの①圏域全体の経済成長のけん引に関するKPIとして設定している12の事業の中では、4番のNIIGATA SKY PROJECTや、5番のDXプラットフォーム推進事業などが、製造業ではない部分もあるが、現行の取組の中では掲げられており、また、事業の見直しがかかっている部分もあるが、2番の新潟地域産業見本市開催という事業もある。

圏域の11市町村の皆様とも話し合う形になると思うが、先日、広域都市圏の市町村担当課長会議があり、指標の見直しを提案したところ。その会議の中では具体的なKPIは出てこなかったが、もしこのKPIはどうかというご提案があれば、今回掲げているものと併せて考え直していくことになろうと思う。

参考までに、過去に成果指標として検討したものの中には、他の広域都市圏で採択しているものとして、法人住民税の納税義務者数という数値があり、こちらは一次産業、二次産業といった区分ではなく、法人全てになるが、この数値を見ていくと、ほとんど数字の動きがないということで、成果指標としてはいかがなものかということがあった。また、大学卒業生の県内就業率という話もあったが、圏域の数値をとることが非常に難しいという事情もあり、成果指標としては難しいという判断をした。資料2-2に記載しているもの以外の検討事項としては、こういったものもあったところ。

○ その他

会議全体を通じた意見・質問や情報交換事項がないか、問いかけ。

(意見・質問)

金子委員

今更ながら、実は、にいがた2kmの2kmがどこからどこまでのことで、どういうことを考えているか、こういう委員でありながら分かっていない。もう少し広報をやられてはどうか。

山本政策監

エリアの関係では、はっきりとした起点と終点というものはなく、新潟駅の南口を含めた広く新潟駅から東大通、榎谷小路、旧三越の回りも含めたエリア。大体の距離とし

て2kmというエリアであり、万代島や万代の周辺も含まれている。この取り組みについては、新潟駅の高架化事業と併せて、新潟駅前の様々なビルの建て替え等の事業もあり、そういった取り組みをますます広く推進していくとともに、そこに集積した様々な力を新潟市全域に広げていけないかという取組であり、にいがた2kmのエリア以外への波及のある事業も検討されているところ。

また、この4月にはいろいろな取り組みが始まっており、特に若い方を中心とした取り組みでは、「KAIKOU!」という事業も始まっており、この事業では、募集をかけると定員に達してしまうほど応募があるという状況。ただ、新潟市民に対して（にいがた2kmが）どこまで浸透しているかという点、世代や地域によって様々な部分があると思う。にいがた2kmの地域を豊かにしていくというよりは、にいがた2kmの発展を新潟市域全体に広めていこうという取り組みと思っている。

金子委員

新潟では、コロナが開けてからすごくコンサート多い。そのコンサートに友達が来たり、姪が来たり、いとこが来たりしているが、その時に新潟でどこかに行きたいと言われたときに、どこを案内すればいいのか。そのこともあり、にいがた2kmが私の頭の中にずっとあった訳だが、私としては、ちょっと巡って歩いて回れるような、一時間とか一時間半の間に（新潟を）周って、新潟のことが分かるというのがいいのかなと思っている。それから信濃川のミズベリングはすごく綺麗であり、私はこれを皆さんに「絶対信濃川はすごいから」と萬代橋と信濃川のPRをしているが、新潟の人たちが県外の方に向けて、そういう発信ができる共通認識ができると良いと最近感じており、お話をさせていただいた次第。

高井委員

成果目標の指標として、製造品出荷額が指標としてどうかというご意見があったが、新潟市を中心とした経済の活性化という点では、やはり基幹となるような産業というか、若い人たちが新潟県で働きたくなるような魅力的な企業が新潟市に根付くことが大事だと思う。ぜひ第3期計画の中には、圏域全体の経済成長のけん引の連携事業に、魅力ある企業が新潟に根付くような政策も入れていただけると良いと思う。

具体的には以前、洋上風力などを例に挙げさせていただいたが、長くいろいろな産業を巻き込んでいけるような、経済的にも活力のある産業がスタートすることを期待した

い。非常に難しいことだと思うが、製造業も非常に幅広いので、金属や鉄鋼業ということだけではなく、経済成長の起点になるようなものを入れ込んでいただきたい。

山本政策監

指標については、こちらの方でも検討して参りたいと思う。実際そういう数値があるかどうかは別として、今ほど高井委員からいただいたようなご意見で構わないので、皆様からご意見を頂戴できると、我々の方でもさらに検討が深められると思っているが、いかがか。

本間統括政策監

KPI という目標設定があり、さらに検証可能な数値がいいと思う。小見委員からもご指摘があった通り、取り組みのその先に、その数値の達成に貢献するという因果関係のようなものが必要と思うので、委員の皆様からのご意見をもとに検討させていただきたい。お気づきの点があれば、この場だけでなく、またお知らせいただければと思う。

○ 閉会